

平成30年度第1回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要	
開催日時	平成30年9月27日（木）午前10時15分から12時15分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第23会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」平成30年度（平成29年度実績）評価コメントのとりまとめについて</li> <li>・今後の予定について</li> </ul>
参加者	出席者 6人 ・ 事務局 3人
開催形態	公開（傍聴人 2人）
担当課	環境部 環境政策課
<b>意見等の内容の取り纏め</b>	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」平成30年度（平成29年度実績）評価コメントのとりまとめについて、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」の各指標に関する平成29年度施策実績及び担当課の自己評価に対して、各参加者からいただいたコメントを事務局で整理した。</p> <p>今回も、より多くの意見をとりまとめに反映したいと考え、評価コメント抜粋資料にて参考としたい文言を箇条書きで抜粋している。抜粋したコメントの他に、とりまとめに反映していきたいコメントがあればご意見をいただきたい。</p> <p>会議後、抜粋コメント及び会議でのご意見を基に事務局で「とりまとめ（案）」を作成し、後日ご確認をお願いする予定である。なお、とりまとめ結果を奈良市環境審議会に報告するための資料を「参考資料」として、今年度新たに作成した。</p> <p>各指標の評価コメント及び総括コメントについて議論いただき、担当課の自己評価に対する推進会議の評価コメントとして意見を出していただいた。</p> <p>○参考資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良市環境審議会への報告用資料として作成した意図は？</li> <li>→数値だけの評価ではなく、推進会議でどのような意見が出されてどのようなとりまとめがなされたかということを見える形にするために、今年度新たに作成させていただいた。</li> <li>・総合評価がA～Dになった根拠は審議会には見えないのか？</li> <li>→資料2「担当課の自己評価シート」も併せて資料として審議会に提出してはどうかと考えている。また昨年度は、各指標の実績・現状分析の下に評価点・総合評価・推進会議のとりまとめコメントを追加したものを資料として審議会へ提出していた。</li> </ul>	

⇒審議会資料として、**参考資料**「評価コメントとりまとめについて」に評価の根拠を追加した形で資料として出し、さらに **資料2**「担当課の自己評価シート」をこれまでの資料との継続性も踏まえて何らかの形で出すように事務局で検討する。

#### ○質疑・意見の要旨

とりまとめのポイントとなる文言や、抜粋コメントに追加してもらいたいコメント、もしくは全体の流れとして抜粋コメントにない方が良いコメントについて分野ごとに意見をいただいた。

#### <地球温暖化対策分野（シート No. 1～4）について>

・No. 1 市域の温室効果ガス排出量削減には直結しないが良い施策で継続すべき施策（グリーンカーテンの普及や雨水タンク設置補助など）は、市民に分かりやすく具体的な施策として推進してもらいたい。

・コメント抜粋の「市民に分かりやすく具体的な施策の推進」と「グリーンカーテンの普及や雨水タンク設置補助」を合わせて、さらに「公共交通機関のエコ化」についても絡めていただきたい。

・平成 30 年度に新規事業として健康エコハウス補助事業が始まったことについても、温室効果ガス排出量についての結果はまだ先になるが、市民に対して具体的な施策推進を示せていると思う。

・指標としてテーマが大きすぎて、他の指標との開きがありすぎる。例えば、家庭・業務・運輸部門で分けるなど、今後、指標について検討する必要がある。

・No. 4 住宅用太陽光発電の 10 年間の固定価格買取制度（FIT 制度）が終了する 2019 年問題やソーラーパネル廃棄問題についても行政に検討してもらいたい旨を追加してほしい。情報収集や実態調査など。指標は設置割合だが、これから起こる問題提起及び備えは必要であると考えます。

⇒地球温暖化対策分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

#### <自然環境分野（シート No. 6～9）について>

・No. 6 間伐の施業管理が環境保全のために重要ということは推進会議でも共有化されている認識である。

・No. 7 生産者と消費者の顔が見える環境を作るという意味で重要視しており、継続していただきたい。

・No. 8 具体的なイベントで興味・関心を持ってもらうことが重要であるため、続けることに意義がある。

- ・No. 9 学校給食食材については、質的な側面と量的な側面でハードルが高いが、それをクリアするような奈良県産使用を推進することを期待する。
- ・自然環境分野については、続けているかどうかをチェックすることが重要であると考え。⇒自然環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

<歴史環境分野（シート No. 10～12）について>

- ・No. 10 担当課の今後の予定にある“定型書式の作成などにより作業効率の向上を目指す”ことについては、これまで定型書式がなかったことから担当課の意識の向上が見られると考えて良いのではないか。
- ・京都ではまちづくりセンターがカルテを作っていると聞いている。景観や環境を壊さずに統一感のあるものになるよう期待する。
- ・No. 11 広報不足という課題について、入館者を増やすために何を広報すれば良いかをしっかり考えてもらいたい。最近、奈良国立博物館や県立美術館と連携しながら奈良全体としての企画の一翼を担う企画が少しずつ出てきていると感じている。それらのことをしながら、広報に力をいれてもらいたい。
- ・No. 12 後継者だけでなく、関心を持って伝えられる人を増やしてもらいたい。⇒歴史環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

<生活環境分野（シート No. 13～17）について>

- ・生活環境分野については、少なくとも現状維持しなければならない。
- ・No. 13 近隣自治体との連携が重要である。高等学校教科書には、大陸からの汚染物質によるという記述がされている。
- ・酸性雨の調査で、遠くから運ばれる物質とそうではない物質があり、大陸からではない有害物質があることが分かった。奈良公園周辺は大陸からだけの問題ではなく、車の規制をしなければ有害物質は減らないのではないか。
- ・相互に影響しあっていると考えられる。実は内在的な側面もあるということに関してもコメントとして追加してもらいたい。
- ・No. 15 河川の BOD 環境基準達成率 100%を継続しているということだが、菩提川や佐保川など清流とはいえない。ポンプアップして水量を増やす努力をされている部分はあるが、BOD では推し量れないという意味で、指標の見直しも必要であると考え。
- ・計画期間中に指標の変更をすることは難しいため、次回計画改訂時に検討することが望ましい。

・No. 17 事業者によるダイオキシン類測定の徹底について、法に基づく測定義務であることから、100%になるよう事業者への指導が重要である。

⇒生活環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

#### <資源循環分野（シート No. 18～23）について>

・No. 18 奈良市の家庭ごみ展開検査に立ち会ったことがあるが、封を開けていない手付かず食品が非常に多い。環境分野だけでなく食育分野とも絡めた啓発も重要であると考えている。食品ロスのは半分はコンビニからと思われがちだが、半分は家庭からというデータもある。特に都市部のごみの展開検査で手付かず食品が多い。

・フードバンクが扱う商品は賞味期限1ヶ月以上であるため、1ヶ月未満の食品が特に問題となる。

・意識・関心・喚起が重要である。買うからごみが増えるので買わないようにする。また流通量そのものが多すぎるため、流通も含めてコントロールできる仕組みが必要である。

・防災備蓄についても、期限が切れる前に消費するということが必要。

・ごみ搬入量の減少に向けてはもっと頑張ってもらいたい。ごみの量を減らせば、収集運搬車、焼却炉などの問題も改善される。

⇒資源循環分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

#### <都市環境分野（シート No. 24～30）について>

・都市環境分野については、防災、公園・緑、交通の3分野に分けられる。

・No. 26 自主防災防犯組織結成率については100%を維持しているが、地域によっては高齢化への対策が必要と考える。

・防災に関しては、近年、現実の問題として出てきており、想定外が大きくなってきているため、どこまで想定するかが難しい。

・奈良市ハザードマップはホームページで公開しており、県は土砂災害警戒区域を公表している。

・原地形を押さえておくことが重要であり、それを踏まえたハザードマップが必要である。

・自主防災防犯組織結成率に関しては、関心のある方が広めていくことが重要である。

・防災に関する行政の責任をしっかりとさせ、自治会や町内任せにしない。

・行政としては職員数が減少しているうえに、奈良市居住の職員が減少していることから、休日に災害が起こった場合に参集できる職員が少ないという課題もある。また、地域によっては学校と連携し、平日昼間に災害が起こった場合に学生の力もバックアップとして協力いただける体制を図っていると聞いている。

・行政と自治会・自治連合会との連携強化が必要である。

・No. 27 応急手当受講者数については、初期対応が出来るかどうかが重要であるという応急手当の意味を伝えられるような講習をされているかという視点で、高い目標を掲げて取り組んでいただきたい。

・No. 30 パークアンドサイクルライド利用者数については、シェアリング自転車の動向も注視しつつサービスの充実を目指し、旧市街に車が流入するのを少しでも減らしてもらいたい。

・地球温暖化対策のためには生活形態を変えることが重要であり、シェアリングもその1つである。例えば以前は、車は1人1台という形態であったが、今は1家に1台、もしくはマイカーを持たずにシェアするという形態もある。そのような生活形態の転換が二酸化炭素排出量削減につながる。

・交通に関する取組については、本来は都市計画から発生しなければいけない。理想的なことを言えば、車、公共交通機関、自転車の連携が重要である。

・今後、都市計画の問題として調整されていくかどうかについて、評価シートには表れないが、意識・関心を持って見ていきたい。

⇒都市環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

#### <環境教育分野（シート No. 31～33）について>

・環境教育については、幼少の頃から意識付けをすることが重要。環境審議会では、環境教育推進会議の報告もある。

・学校教育においてSDGsの考え方の意識はあるのか？

→これからだと思われるが、重要である。紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産に登録されたのはまさにSDGsの考え方による。教育委員会において学習指導要領に掲載されれば広まっていくと思う。

・SDGsのことについてもコメントに追加していただきたい。

⇒SDGsについては総括コメントに追加することとし、環境教育分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

#### <全分野の総括について>

・このままでは地球温暖化は防げない。構造を変えなければいけない。さらに構造改革を進めていくというコメントを追加してもらいたい。

・市民や企業がもっと快く取り組める「参加型」の施策を更に増やすことが重要である。

・市民が住みやすいまちづくりに向けて高い意識を持って行政が頑張ることが重要である。「環境に良い町は、住み良い町」を目指して環境を良くすることで市民が住みやすくなる。

- ・行政が頑張ってくれていたら市民も協力しようという気になる。楽しいことや、気持ちいいことが増えたら参加したいと思える市民も増えると思う。
- ・奈良公園を中心とした遺産は奈良市の宝である。環境が良いということは住みやすさにつながる。
- ・住みたい町は観光したい町につながる。住みたい環境を作ることが重要である。
- ・春日山原始林など県の管轄がほとんどだが、奈良市が積極的に関わってもらいたい。
- ・SDGs についてを追加する。

⇒全分野の総括について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

今後、いただいた意見を基に事務局でとりまとめ（案）として文章化して、委員の皆様にご確認いただく。

次に、今後の予定について、事務局より説明がなされた。

上半期の開催は本日で最後となり、本日までに皆さまからいただいたご意見を参考に、評価コメントの取りまとめ結果について、環境審議会で審議いただく。

次回の会議については、今年度の評価コメントシートの取りまとめ方法をふまえ、次年度の取りまとめ方法について検討したいと考えている。1月中～下旬頃を予定している。